

# アカオビアザミウマ

学名：  
*Selenothrips rubrocinctus* Giard



発生作物：グアバ

## 発生経過

平成 20 年 7 月、香美市の家庭菜園の施設グアバにおいて、果実の表面が灰色～褐色に艶なく変色する症状が発生し、その果実表面に数頭のアザミウマが確認されたことから、高知県農業技術センターで同定したところ、これまで本県では発生がなかったアカオビアザミウマであることが確認されました。現在のところ、本県で発生が確認されたのは同市の 1 施設のみで、それ以外の地域での発生確認の情報はありません。

本種はアジア、アフリカ、南北アメリカ等の熱帯から亜熱帯にかけて、世界的に広く分布しています。寄主範囲も広く、カカオやマンゴー、アボカド等多くの熱帯果樹類に被害を及ぼし、日本でも沖縄県及び鹿児島県奄美地方、東京都小笠原村のマンゴー栽培地域で被害が報告されています。

## 形態、生態等

成虫の体長は、雌が約 1.2 mm で雄は雌より小型ですが、形態はほぼ同じです。体色は暗褐色ないし黒色で、鮮明ではありませんが腹節の 3 節めまでと先端部に赤い縁取りがあります(写真 6)。幼虫は黄白色か黄色で、腹部第 1～2 節と先端部が鮮やかな赤色です(写真 7)。蛹も幼虫と同様の体色及び赤色の帯状の模様がありますが、これが本虫の形態的な特徴となっています。



写真 6：アカオビアザミウマ成虫



写真 7：アカオビアザミウマ幼虫

## 被害状況

本虫は多くの植物の葉や果実を食害し、食害を受けた葉は艶がなくなり灰色～暗褐色に変色したり変形し、ひどい場合は落葉します。果実表面も灰色～褐色に変色して艶がなくなり、著しく商品価値が損なわれます(写真 8-1、8-2)。



写真 8-1：グアバ果実の被害



写真 8-2：グアバ果実の被害

## 防除対策



- 1 防除対策としては、グアバでは本種に対する登録農薬はありませんが、バンジロウツノエグリヒメハマキに登録のあるアクタラ顆粒水溶剤が有効と思われます。
- 2 苗木からの持ち込みを防ぐため、寄生の有無をよく確認し、寄生が疑われる場合は使用しないようにします。さらに、他の熱帯果樹類など寄生の恐れのある植物を施設内へ持ち込まないようにします。
- 3 施設開口部への防虫ネット被覆など耕種的防除もあわせて行います。